令和８年度　江東区立第七砂町小学校　経営計画

校長名＿＿＿＿＿＿

Ⅰ　教育目標

これからの新しい時代「Society5.0」に向けて、人と社会、自然環境等と協働しながら、広い視野と地域社会の一員としての自覚をもち、予測困難な時代を児童が生き抜くために必要な資質・能力を確実に育成するため、次の教育目標と目指す力を設定する。

【教育目標】

◎すすんで学び、よく考えるこども　「かしこく」：課題設定・課題対応力・学習調整力

〇優しい心をもち、助け合うこども　「やさしく」：人間関係形成力

〇からだをきたえ、やりぬくこども　「たくましく」：困難に負けず粘り強くやり抜く力

Ⅱ　経営方針

目指す学校像	【こどもをまんなかに置き、教職員・保護者・地域が「こどもを輝かせること」で結ばれている学校】**「楽しくかかわりながら学ぶ七砂小」**
目指す児童像	【自ら課題意識をもって追究し、ともに楽しく学ぶ児童】 【人権意識をもち、自分の大切さとともに、他の人の大切さを認める児童】 【自らすすんで、よりよくなろうと粘り強く努力する児童】
目指す教師像	【児童にとって、よき指導者、よき伴走者となる教師】
経営理念	**① すすんで学び、よく考えるこども「かしこく」の実現のために** 〇生活科・総合的な学習の時間を中心に各教科において課題設定力・課題対応力・学習調整力を付ける。学習計画を児童とともに立て、教師と児童、児童同士がかかわり合いながら学習することで学習意欲を高め自ら考え、探究的な学びを行う。 〇学習用端末を始めとする ICT 機器を効果的に活用し、授業の質の向上を図り、個別最適な学びと協働的な学びの実現を図る。 〇こうとう学びスタンダード（ネクストステージ）を基軸にユニバーサルデザインの視点を取り入れたすべての児童が自ら楽しく学ぶ授業を展開する。 **② 優しい心をもち、助け合うこども「やさしく」の実現のために** 〇社会生活の基本的なルールを身に付け思いやりの心と規範意識を醸成する道徳教育・人権教育を行い、人間関係形成力を育てる。 〇「子どもの権利条約」「こども基本法」を学ぶ機会をつくり人権感覚を高め、自分も同じように他の人の大切さを認める教育を行う。 〇「いじめ防止基本方針」に基づく、いじめの未然防止・早期発見・早期対応・早期解決を行う。副担任制を導入し、多くの目で児童を見守り、支援する。 〇道徳の重点内容項目「親切、思いやり」「礼儀」を設定し、道徳授業地区公開講座の充実を通して地域、保護者と連携し、道徳教育の充実を図る。 〇異学年交流を通しての豊かな人間関係の構築を目指す。 **③ からだをきたえ、やりぬくこども「たくましく」の実現のために** 〇体力スタンダードに基づく授業改善や児童の発達に適した多様な運動を実践するとともに、健康の増進とスポーツ志向の向上を図る。 〇何事にも途中であきらめず、粘り強く自分の力を出して高まる経験を重視する。 **④ 児童の多様な学びの保障のために** 〇多様な体験活動を実施することで、児童が年齢や性別、国籍の違いや障害の有無に関わらず、共に尊重しながら助け合い、多様性を認め合う教育を推進する。 〇特別支援教室巡回拠点校の特徴を生かし、教職員が児童一人一人の発達特性を理解し、関係機関とも連携を図る。特別支援の理解教育を行い、学校全体として特別支援教育を推進する。 〇Ａｃｔｉｏｎ２４の理念の元に問題事案に対しては早期発見・対応をすることで早期解決を図る。 〇別室指導や SC、SSW と連携した不登校対応を行い、全教職員が不登校児童の理解、自殺予防、安全管理の徹底を行う。 〇児童の発達や学びの連続性に配慮した教育を実施するため、保幼小中で連携を積極的に図るとともに、スタートカリキュラムを活用して、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を意識した教育を推進する。

Ⅲ　経営目標

重点領域１	すすんで学び、よく考えるこどもの育成
中期経営目標	こうとう学びスタンダード（ネクストステージ）の定着と既習を生かして自ら考えを深める授業を行う。ICT 機器を利用した学習のよさが効果的に現れるようにする。個別最適な学びと協働的な学びによって、児童が見通しをもって主体的に学習に取り組み、次の時代に必要な資質・能力を確実に身に付ける。
短期経営目標	○こうとう学びスタンダード（ネクストステージ）を基にして作成した「七砂小学び方スタンダード」「七砂小持ち物スタンダード」を児童の実態を踏まえ、よりよい内容に改善し、定着を図る。 ○校内研究「生活科・総合的な学習の時間」を通して、よきファシリテーターとして教師の授業力向上を図る。 ○１人１台端末を最大限活用するとともに、デジタルとアナログのよさを生かしたかかわりを生かした授業を実践する。 ○読書環境を整え、読書活動を工夫・推進し、児童の読書意欲と質の向上を目指すとともに、言葉を大切にした俳句教育の充実を目指す。

項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
１	○児童自身が学習計画を立て、既習事項を生かして考える授業に日頃から取り組む。朝学習「おはスタ」や放課後教室を実施し、こうとう学びスタンダード（ネクストステージ）に基づき、児童に必要な基礎的な知識・技能の定着を図る。 ○「七砂小学び方スタンダード」「七砂小持ち物スタンダード」に基づいた学習規律等の確保を全ての教員が実施する。	○CDT テストを全国平均以上にする。 ○保護者アンケートの「基礎的な知識技能が身に付いている」の肯定的評価を 90%以上にする。 ○児童の自己評価「学び方ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ・持ち物ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞを守ることができた」の肯定的評価を 90%以上にする。 ○保護者アンケートの「授業規律が保たれている」の肯定的評価を 90%以上にする。
２	○全教員が関わる研究授業を、年３回実施する。 ○生活科・総合的な学習の時間を中心に、自分で課題を作り、考えて課題を解決していく楽しさを全児童に味わわせる。	○児童の自己評価「自分で考えて学習することは楽しい」の肯定的評価を 90%以上にする。 ○児童の自己評価「生活科・総合的な学習で学ぶことは楽しい」の肯定的評価を 90%以上にする。
３	○授業で学習用端末のよさを活用して児童同士がかかわり合う授業改善を行う。 ○教員同士で ICT 機器の新しい活用方法を紹介し合う学びの場を設ける。	○児童の自己評価「Chrome book は友達の考えを知り、話し合いの学習に役立っていますか」の肯定的評価を 90%以上にする。
４	○すべての学級で、毎週の朝読書の充実を図ることを通して、児童が読書に親しむ機会の充実を図る。 ○俳句を作る前の学習で言葉を増やしたり、適した言葉を考えたりする学習を行うことで、言葉を大切にし、吟味する力を伸ばす。 ○月に１回の読み聞かせ朝会を行い、児童が本に興味をもつ機会を増やす。	○児童の自己評価「読書が好き」の肯定的評価を 85%以上にする。 ○児童の自己評価「使える言葉が増えた」「言葉について考えた」の肯定的評価を 90%以上にする。

重点領域２	優しい心をもち、助け合うこどもの育成
中期経営目標	優しい学校づくりをキーワードとして、人権尊重の精神を徹底した教育活動を実施する。児童のよさを見出し、自己肯定感をもたせるとともに、互いのよさを認め合い、助け合い、信頼し合う関係を構築する。
短期経営目標	○全体計画に基づいた人権教育・道徳教育の授業実践、および教師の人権感覚の見直しを図り、全教育活動において、児童の人権を意識した取組を行う。 ○「七砂小いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止・早期発見・早期解決のために、組織的・計画的に対応する。 ○「東京２０２０レガシー」の継承として、障害者理解等の推進に努める。 ○たてわり班による異学年交流活動を充実させることで、自己肯定感を育むとともに「お互いのよさを認め合う」を年間目標とし、年間を通して児童の相互理解に努めるとともに、「あいさつ」の意義を実感させ、その指導に取り組む。

項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
１	○特別な教科道徳の授業と評価の充実、道徳授業地区公開講座による保護者・地域と連携した「心の教育」の充実を図る。	○児童の自己評価「道徳の授業に意欲的に取り組む」の肯定的評価を 90%以上にする。 ○児童の自己評価「自分や友達を大切にしている」の肯定的評価を 90%以上にする。
２	○Action24 の趣旨を理解し「いじめ」や「問題行動」の未然防止、早期発見、早期解決を図る。 ○「いじめ防止研修会」を年３回、毎週金曜日に生活指導夕会を行い、児童の状況やその対応について、全教職員が共通理解を図り、いじめ解消率 100%を目指す。	○児童の自己評価「友達と仲良くしている」との肯定的評価を 90%以上にする。 ○児童の自己評価「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の肯定的評価を 100%にする。
３	○異学年交流活動（ペア遠足・遊び・校内清掃）を計画的に実施する。 ○あいさつ週間の実施と、生活委員会・各学年・各学級の取り組みを工夫して実施する。	○児童の自己評価「たてわり班による異学年交流」についての肯定的評価を 90%以上にする。 ○保護者アンケートの「こどもたちはすすんであいさつをしている」児童の自己評価「すすんであいさつができる」についての肯定的評価を 90%以上にする。

重点領域３	からだをきたえ、やりぬくこどもの育成
中期経営目標	児童の健康・体力の実態を把握し、体力向上・健康増進に向けて、年間を通して計画的に取り組むことで、たくましい心と体が育成されている。
短期経営目標	○「体力スタンダード」の定着を図る。 ○体育授業・体育朝会・体育的行事・健康教育の充実を図ることを通して、体を動かすことが好きな児童を育てる。 ○何事にも最後まで自分の力を出し切る児童を育てる。 ○自分の体の健康を大切にする児童を育てる。

項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
１	○「体力スタンダード」の学年目標を設定し、定着への具体策を学年で計画・実践する。（コオディネーショントレーニングの取組）	○児童の自己評価「めあてをもって持久走や長縄チャレンジ、持久走チャレンジに取り組んだ」の肯定的評価を 90%以上にする。
２	○体力テストの結果分析を行い、低かった項目について中心に、日々の体育授業、持久走チャレンジ、長縄チャレンジで、運動への関心を高める。	○児童の自己評価「体を動かして運動することが好き」の肯定的評価を 90%以上にする。 ○保護者アンケートの「こどもたちはすすんで運動に取り組んでいる」の肯定的評価を 90%以上にする。
３	○スタンダート講師と連携し、運動を通して何事にも最後まで粘り強くやりぬく態度を育成する。	○児童の自己評価で「何事にも最後まで粘り強く頑張っている」の肯定的評価を 90%以上にする。
４	○担任、栄養士、養護教諭が健康に関する連携した授業を行い、食育や保健指導の充実を図ることで、自らの健康を考える児童を育てる。	○児童の自己評価「自分の健康を考え、健康管理に努める」の肯定的評価を 90%以上にする。

重点領域４	多様な学びの保障
中期経営目標	すべての児童が学校で楽しく学び、充実した生活を送る。 特別支援教育について教師が正しく理解し推進する。
短期経営目標	○多様性の理解教育と理解啓発に努める。 ○困り感のある児童や特別に支援を必要とする児童の、個別の対応の仕方を適切に行う。

項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
１	○様々な体験学習を設定し、多様性について実感できるような教育を推進する。	○世の中には様々な人たちがいて、互いに大切にし、助け合って生活することが必要である」の肯定的評価を 90%以上にする。
２	○ひまわり教室の教員と連携し理解教育を行う。 ○特別支援委員会に全学年の担当が出席し、特別支援コーディネーターを中心に校内委員会を充実させる。	○保護者アンケート「学校は個に応じた指導を行っている」の肯定的評価を 90%以上にする。
３	○別室指導を整備し、学習できる環境を整える。学校生活支援シートを利用し、保護者との連携を図る。	○別室指導教室を利用している児童へアンケートを行い、利用のしやすさについての肯定的評価を 100%にする
４	○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、個別に必要な支援を行う。	○学校生活支援シートを利用し、必要な機関と連携できるようにする。

重点領域５	保護者・地域とともに「こどもを輝かせる」学校づくり
中期経営目標	地域に開かれた教育活動を行うことで、児童の健やかな成長を願う思いを互いの「信頼」で紡ぎ、より大きな力となり、児童・教職員・保護者・地域が一体となって教育活動を推進する。
短期経営目標	○地域の教育力を生かした教育活動を実践する。 ○学校からの情報発信を定期的・計画的に行う。 （学校公開・各種便り・ホームページ・掲示板・学校情報メール 等） ○PTA や地域学校協働本部と連携し、児童の安全管理等に取り組むとともに、校外の活動でも金管バンドクラブの活動を充実させる。

項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
１	○基本的な生活習慣を身に付けることや家庭学習の意義を適宜、地域や家庭に発信する。 ○学校だよりと保護者会を通して七砂小　学び方スタンダード、Challenge　Wednesday の理解を図り、家庭と連携する。 ○基本的な生活習慣を身に付けることに関しては幼稚園・保育園との連携を図る。	○保護者アンケート「各家庭において基本的な生活習慣を身に付けるように努力している」の肯定的評価を 90%以上にする。 ○保護者アンケート「家庭学習は必要である」の肯定的評価を 90%以上にする。
２	○学校からの情報発信として、月に１回、学校だより・学年だより・保健だより・給食だよりを発行し、電子データでいつでも情報を収集できるようにする。 ○各掲示板は月１回以上、HP は随時更新する。 ○年３回、土曜日を含めた学校公開を開催する。 ○校長相談日を月２回設定し、保護者や地域との連携を図る。 ○学校評議員、PTA 役員と教員との懇親会を設定し、連携を図りやすくする。	○保護者アンケートの「学校の情報は保護者に十分に届いている」の肯定的評価を 90%以上にする。
３	○年２回、登校班会議を実施し、PTA 補導員との連携を図る。 ○地域の行事や各種コンクールにおける金管バンドの校外での活動を年間３回以上実施することを通して、本校の特色ある教育活動を広める。	○児童の自己評価「遅刻することなく登校できる」の肯定的評価を 90%以上にする。 ○児童の自己評価（金管バンド所属の児童対象）「金管バンドの活動に意欲的に取り組んでいる」の肯定的評価を 90%以上にする。